

視察研修・研修会等報告書

議席番号（ 10 ） 議員名（ 中村 久信 ）

1 日 時：平成28年11月9日～11日（日数：2泊 3日）

2 場 所：鯖江市、七尾市、糸魚川市

3 視察、研修事項：下記の通り

4 面 接 者：下記の通り

5 視察研修、研修会の成果：下記のとおり

○鯖江市：市民主役のまちづくり～市民主役条例・鯖江市役所 JK 課～について

面会者：総務部市民協働課：橋本課長、同：高橋課長補佐

○七尾市：スポーツ合宿のメッカづくりについて

面会者：議会事務局：前畑局長、産業部観光交流課：高瀬課長補佐

○糸魚川市：子ども一貫教育方針及び基本計画について

面会者：市議会：倉又議長、議会事務局：石崎主査、

教育委員会こども教育課：山本課長、

同こども課親子健康係：山岸係長、同こども課子育て支援係：白澤主査

【鯖江市：市民主役のまちづくり～市民主役条例・鯖江市役所 JK 課～について】

○鯖江市の概要

1、人 口：68,812人（平成27年4月1日）

2、面 積：84.59km²

3、その他：福井市と工業集積の高い越前市の中間に位置し、鉄道・道路で連結され住みやすく働きやすい環境にあり市制施行（昭和30年）以来人口は増加している。

○市民主役条例

1、平成22年公布

2、基本理念

①まちづくりの基本は市民であり責任と自覚をもって参加

②相互の学習を通じた人づくり

③情報の共有と協力

④市の市民意思の尊重

3、具体的施策

①提案型市民主役事業化制度

市が行っている公共的な事業の中から、市民が「新しい公共」の担い手として自ら行ったほうが良い事業を創出する。平成28年実績：提案件数42件、採択38事業、地域活性化ブランドコンテスト、さばえの味再発見事業など

②鯖江市役所 JK 課の創設

まちづくりコンテストにおける慶大特任教授 Gr からの提案。

これまで市民協働の参加要件を 15 歳以上とし、高校生の参加を想定していたが実際にはなかった。この現状を打破するために、あえて最も市政やまちづくりに遠い存在の女子高校生を対象とする斬新なもの。

公表後、大都市圏から苦情（ネーミング、奇をてらった、何が出来るなど）の結果参加を取りやめた人も出たが、市長及び職員と女子高生の信頼関係が女子高生の決意につながり JK 課が発足した。

基本姿勢は高校生を信じ「任せる」こと、そして「教えない」こと。

結果として、「鯖江ピカピカプラン」と題された若者主体の清掃活動やオリジナルスイーツの開発・販売、市立図書館の学習スペース空き状況閲覧アプリの開発など、様々な企画と実践。

1 年目は、79 回の活動と 22 回のイベント・事業参画、2 年目はメンバーも増え 80 回の活動と 21 回のイベント・事業参画という想像もしていなかった実績。

4、所感

超高齢社会・少子・人口減少と言ったこれまで経験のない社会が急速に訪れている。

以前の様に、国も地方も財政が厳しく何でも行政が行うことは困難な時代に入っている。従って「新しい公共」の考えのもと、市民協働によるまちづくりを推進することは極めて重要となってきている。しかし、現実のごく一部の限られた方々の参画に留まっており、働き盛りの方や若者の参画が極めて少ない状態にある。

鯖江市の「JK 課」は大胆な発想と熱意によって実現したものと受け止めている。

新しいことに慎重な体質、苦情を受けそうなことはやらないと言った事を乗り越えた職員の意識と力、市長をはじめとした関係者の熱意が高校生に伝わり、苦情に打ち勝ち実現できたと受け止めている。

また、高校生を「信じ任せきる」ことも中々できそうにないが、その重要性を感じた。矢板市においても働き盛りの方々、若者に多くまちづくりに参加してもらう事が必要であり、今後の活動に活かしてまいります。

【七尾市：スポーツ合宿のメッカづくりについて】

○七尾市の概要

- 1、人口：54,988人
- 2、面積：318.04km²
- 3、その他：能登半島の中ほどに位置し、平成16年に1市3町が合併している。
全国的に有名な和倉温泉をはじめ様々なリゾート施設を有する能登半島の観光資源に恵まれている。

○七尾市合宿等誘致事業

1、経緯

- ①平成12年より和倉温泉の一部旅館がサッカー合宿の受け入れを開始
- ②平成19年度に「七尾市合宿等誘致事業補助金」開始
- ④平成21年和倉温泉観光協会・旅館協同組合が市に対しサッカー場の建設を要望
- ⑤平成22年和倉温泉運動公園多目的グラウンド、25年能登島グラウンド完成

2、合宿取り組みの概要

①合宿等誘致事業補助金

目的：市外の団体（学校）等の市内の宿泊施設における宿泊を伴う合宿に対し補助金を交付することによって交流人口の拡大を図り、地域の活性化に資する

対象：高校生以上 1人1泊1,000円50泊以上、上限50万円

中学生以下 1人1泊 500円50泊以上、上限25万円

誘致活動：首都圏及び関西・中部方面へ和倉温泉旅館協同組合と連携し実施

訪問先：合宿取扱い旅行社、競技団体（協会や連盟）、大学及び学生生協

3、主たる施設

①和倉温泉運動公園多目的グラウンド

人工芝サッカー場3面、フットサル場2面、ビーチフットサル場1面

利用料金は1時間当たり1,000円～3,000円

②能登島グラウンド

人工芝サッカー場2面、フットサル場2面兼テニスコート3面、夜間照明1面

利用料金は1時間当たり1,000円～3,000円、テニスコート500円

4、管理方法：指定管理

①和倉温泉運動公園

選定方法：非公募

管理者：和倉温泉旅館協同組合

管理料：150万円＋利用料

管理期間：3年間

②能登島グラウンド

選定方法：非公募

管理者：和倉温泉旅館協同組合

管理料：0円＋利用料

管理期間：3年間

5、利用状況

- ①利用者数：平成24年度約57,000人、平成25年度約102,000人
平成27年度約108,000人と能登島グランド整備後倍増
- ②利用料金：平成24年度約800万円、平成25年度約1600万円
平成27年度約1900万円と伸びている
- ③宿泊状況：平成24年度約22,600人、平成25年度約33,200人
平成27年度約30,900人と伸びている

6、補助金実績

平成19年度11件約150万円、平成27年度204件約1800万円

7、地域別

北信越33%、関西32%、東海16%、関東13%、その他6%

○七尾市コンベンション、スポーツ大会等誘致事業補助金

- 1、目的：市内において開催され、且つ市内の宿泊施設に宿泊を伴うコンベンション
スポーツ大会等に対し、補助金を交付することによって学術・文化及び
スポーツの発展並びに地域の活性化を図る

2、交付対象

- ①市内及び近隣市町内の施設で開催されること
- ②宿泊が七尾市内であること
- ③県外からの参加者を含むこと
- ④市外の参加者のうち宿泊者が延50人以上であること
など

3、補助金額

- ①全国・地方大会：1人泊1,000円（中学生は500円）、200万円（中学生
は100万円）
- ②国際大会：国外からの外国人2,000円、限度額200万円

○所感

日本全体で人口が減少している中、人口の維持増加の対策は喫緊の課題であり矢板市も同様である。

この様な状況下、本筋の対策は子どもを増やすことであり、国を挙げて子育て環境の整備に取り組まなければならないと考えている。

他方、矢板市としての守りの政策としては、人口流出を少なくし流入人口を増やすことが必要である。

従って、矢板市はスポーツと観光を融合した「スポーツツーリズム」を推進し、交流人口を増やし活性化を図るとともに定住につなげるべく取り組みを開始した。

交流人口を増やし、活性化と経済効果を図り定住人口増につなげるには、来て・観て・食べて・飲んで・楽しんで・泊まってもらう事が必要であり、今後のまちづくりに向け議員活動に活かしてまいります。

【糸魚川市の子ども一貫教育方針及び基本計画について】

○糸魚川の概要

- 1、人口：44,161人
 - 2、面積：746.11km²
 - 3、その他：新潟県の最西端に位置し、西は富山県南は長野県に接する。翡翠が有名
- 糸魚川市の子ども一貫教育～ひとみかがやく日本一の子どもを育てる～について

1、経緯

- ①平成21年度：「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針」を策定
小中一貫や中高一貫ではなく、0歳児から18歳まで一貫した教育方針のもと市民総ぐるみで子育てを行う
- ②平成22年度：子育て・教育に関する行政窓口を一本化する「子ども課」を教育委員会に新設、「子ども一貫教育基本計画」を策定
- ③平成23年度：中学校区単位で具体的な実践

2、基本理念

- ①心・健康・学力のバランスのとれた子どもの育成
- ②一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てる
- ③ふるさと糸魚川を良く知り郷土を愛する子どもを育てる
- ④家庭、地域、園・学校が力を合わせて育てる

3、基本方針

- ①豊かな心の育成：自己肯定感を高め豊かな心と社会性
- ②健やかな体の育成：規則正しい生活リズムと自己の健康管理
- ③確かな学力の育成：学び合いによる学習意欲の向上、交流及び共同学習を通し自立して学ぶ心
- ④糸魚川市の教育における大きな特色である「糸魚川ジオ学」や「夢を育てる」

4、成果

- ①幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携が進んでいる
中学校区で目指す子ども像について協議し、ランドデザインを作成している
また、学校種を超えた研修会の実施。
- ②早寝・早起き・おいしい朝ごはん運動の定着
平成27年度全国学力学習調査結果 全国：小学校95.6 中学校93.5
糸魚川市； 同 97.2 同 96.6
- ③学校生活を楽しく送っている子どもが多い
平成27年度全国学力学習調査結果 全国：小学校87.0 中学校82.1
糸魚川市； 同 92.4 同 87.0
- ④郷土を愛する気持ちが育っている
平成27年度全国学力学習調査結果 全国：小学校66.9 中学校44.8
糸魚川市； 同 90.1 同 56.2

5、課題

- ①基礎学力の定着をめざして、学校と家庭の更なる連携
平成27年度全国学力学習調査結果 全国：小学校62.7 中学校74.5
家庭学習1時間以上の割合 糸魚川市； 同 69.0 同 55.3

②いじめ・不登校対策に一層力を注ぐ必要がある

過去5年間のいじめ認知件数

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	12	4	8	34	22
中学校	5	10	16	26	22

過去5年間の不登校児童数

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	5	4	4	3	6
中学校	20	23	23	20	32

③高校との連携

④学校と家庭・地域との連携

所感

子どもは将来の日本・地域を担う社会全体の宝であり、社会全体で育てていくことが必要である。

子育てにおいては、それぞれの年齢層において様々な悩みなどに突き当たり、行政の支援や援助を必要とすることが発生する。従って福祉や教育面においても窓口は一元化されるべきと思うが、多くの自治体は縦割り行政という役所の都合により分割されている。

糸魚川市では、「社会全体でしっかりした子どもを育てる」という考えのもと、その為には組織機構はどうあるべきかと言う事で教育委員会に一元化したものと受け止めた。

私も以前一元化の必要性を訴え、子ども課の設置につながったと思っているが、教育と福祉の壁は厚く打ち破ることはできなかった。

今後も一元化に向け取り組んでまいります。

尚、全体を通して感じたことは、市民が何を望んでいるのかまた、市の将来のために何が必要なのか、それを実現するためには今何をしなければならないのか、この事をよく考え行動を起こしていかなければならない。その行動において、柔軟且つ大胆な発想とそれを実現するという熱い思い、強力なリーダーシップが不可欠であると言う事を改めて感じた。

こういう考えのもと、今回の一連の視察内容を今後の議員活動に活かしてまいります。